

2020 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 統合分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|--|---------|-----------------|---|---------------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 在宅援助論Ⅱ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 2年次 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 各教室 |
| 担 当 教 員 | 安部富美子 他 | 実務経験と その関連資格 | 総合病院で手術室、ICU、病棟、外来、安全管理室に看護師長として勤務 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 在宅看護を展開するために、在宅で求められる実践的な看護技術を学習する。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 出席状況、出席態度、課題提出状況、課題の到達度10%、筆記試験90%で総合的に評価する。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院、適宜資料を配布する。 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 指定した教科書や資料を事前に読んでおくこと、事前学習を行ってから演習に臨み、課題を提出する。小テストの復習をし、在宅での療養生活をイメージしながら取り組む。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 講義には既習の学習内容を踏まえた内容がたくさんあります。それらの知識を活用しながら学習してください。日頃からメディア・新聞・雑誌などの情報に関心を持ちましょう。 | | | | | | |
| 授業の 方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 療養者の日常生活を生活行為として総合的にみて、動作分析について説明できる。在宅療養を支えるコミュニケーションの姿勢や技術について説明することができる。 | 教科書 AV機器 小テスト | 小テストの復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 在宅看護技術、在宅で看護を展開するにあたって | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 療養者の環境と呼吸状態や食生活をアセスメントする方法を述べることができる。 | 教科書 AV機器 小テスト | 小テストの復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 在宅で求められる看護技術(呼吸機能アセスメント、食生活・嚥下アセスメント) | | | |
| 第3回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1.在宅療養者の排泄をアセスメントする上で必要な観点を説明できる。 2.在宅療養者の清潔と更衣の特徴とアセスメントを説明できる。 | 教科書 AV機器 小テスト | 小テストの復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 在宅看護技術(排泄・清拭) | | | |
| 第4回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 認知機能のアセスメントの方法と援助について述べるができる。 終末期にある療養者と家族へのケアについて説明できる。 | 教科書 AV機器 小テスト | 小テストの復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 認知機能のアセスメント法と援助技術、在宅における終末期看護 | | | |
| 第5回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 在宅における移動能力の重要性を確認し、療養者に合った安全な移動について説明できる。 | 教科書 AV機器 小テスト | 課題レポート 小テストの復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 移動・移乗に関する看護技術 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 |
|-------|------------|-------------|---|---------------------|-----------------------|
| 第6回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1.誤嚥予防のための観察のポイントと予防法について理解できる。 2. 食事介助の実際が理解できる。 | 教科書 AV機器 小テスト | 課題レポート 小テストの復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 食生活・嚥下への介助 | | |
| 第7回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 在宅における褥瘡の発生機序を説明できる。 2. 在宅における褥瘡の基本的技術について説明できる。 | 教科書 AV機器 小テスト | 課題レポート 小テストの復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 在宅看護技術(褥瘡の管理) | | |
| 第8回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 在宅における排尿ケアのトラブルと対応について説明できる。 | 教科書 AV機器 小テスト | 課題レポート 小テストの復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 在宅における看護技術(膀胱留置カテーテル) | | |
| 第9回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1.ストーマの種類と特徴、処置の仕方が説明できる。 2.ストーマの異常やトラブルの速やかな把握や適切な対応について説明できる。 | 教科書 AV機器 小テスト | 課題レポート 小テストの復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 在宅看護技術(人工肛門・人工膀胱) | | |
| 第10回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1.外来がん化学療法の目的が説明できる。2.副作用発生時のケア、管理のポイント、多職種連携と療養者・家族への支援が説明できる。 | 教科書 AV機器 小テスト | 小テストの復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 在宅における緩和ケア グループワーク | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 疼痛アセスメントに基づく薬物療法やその副作用、身体的苦痛の緩和方法が説明できる。 | 模造紙 マジック | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 緩和ケア (グループ発表) | | |
| 第12回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 在宅における経管栄養法を知り、療養者・家族への支援が説明できる。 | 教科書 AV機器 小テスト | 小テストの復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 在宅看護技術(PEG、経鼻カテーテル) | | |
| 第13回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | HOT、NPPV、HMVの意義と対象者の特徴が説明できる。また、管理方法と、療養者・家族への支援が説明できる。 | 教科書 AV機器 小テスト | 小テストの復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 在宅看護技術(HOT、NPPV、HMV、排痰法) | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 在宅における移動能力の重要性を確認し、療養者に合った安全な移動が実施できる。 | 実習室、ベッド、 車椅子他、演習 | 演習の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 移動・移乗に関する看護技術 | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1.HOT、NPPV、HMVの管理方法の実際について説明できる。2. 呼吸のアセスメントに基づいた適切で安全有効な排痰ケアについて説明できる。 | 業者より機器の説明、演習 | 課題レポート |
| | | 各コマにおける授業予定 | HOT、NPPV、HMV、排痰法、食生活・嚥下への介助 | | |